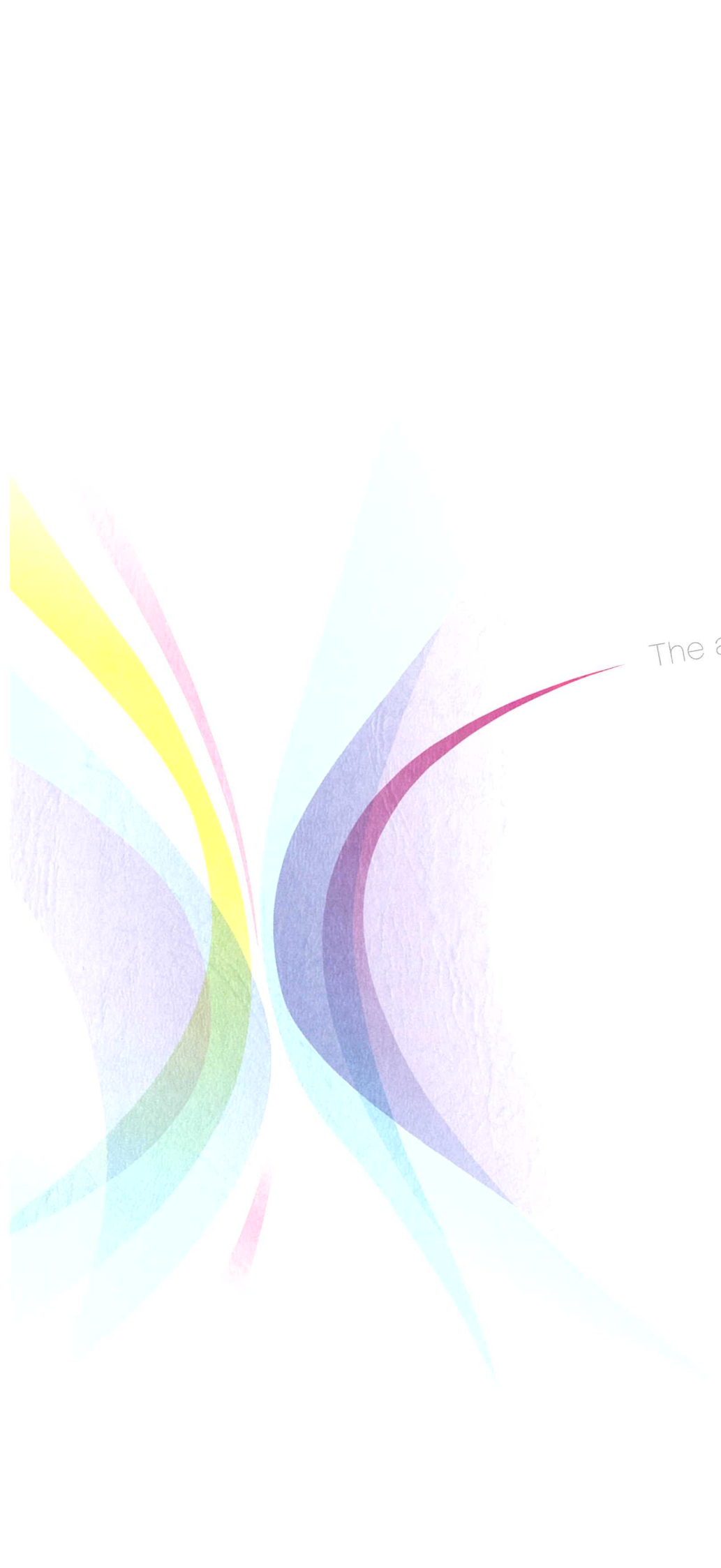




St.Luke

2015

2015.1.1▶2015.12.31

医療法人 **セント・ルカ**

セント・ルカ産婦人科

セント・ルカ生殖医療研究所

The annual report

目 次

巻頭言	1
一年を振り返って	
医局・心理専門相談室	3
看護部	4
研究室・培養室	5
受付	6
情報処理室	7
厨房	8
診療統計	
開院から2015年までの成績	
当院の患者数・妊娠に至った主たる有効治療	10
妊娠の転帰・出産結果	11
初診後妊娠までの期間	12
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断	12
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	12
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	13
ART(生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	13
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	13
妊娠数	14
2015年一年間の成績	
外来患者数・初診患者数	16
不妊治療費助成金申請内訳	17
妊娠の内訳(妊娠に至った主たる有効治療・妊娠の転帰)	18
出産結果・異常児の詳細	19
手術・入院数	20
ART(生殖補助医療)による妊娠	21
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	21
セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ	24
行事一覧	25
著書(共著)一覧	33
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	34
スタッフ配置	38
病院概要	39

宇津宮 隆史

3.11に次いで500年に一度という、前代未聞の2度の本震が熊本、大分地方を襲った。熊本は私が6年間過ごした地であり、多くの大学時代の友人が住んでいる。また、娘の嫁ぎ先の実家でもあることから、いたたまれない気持ちが湧き出てくる。何かをしなければと思うが、思いつかない。大分も、別府、湯布院はかなり大きな被害を被っており、この地にも多くの知り合いがいる。別府の知人の家の石垣が壊れ、修復には250万円もかかるとのこと。この災害にあたって流通、避難所、ライフライン、治安などなど、東日本大震災の教訓がどれほど生かされているのか。また、福島では原子力とは「まだまだ人智に及ばぬ」範疇であることがまざまざと見せつけられた直後で、今回は原発は被害を免れたが、これは不幸中の幸いであるといつてよい。しかし日本にはほかにも数多くの原発があり、そうも言うてはいられない。

翻ってわが「生殖医療」の世界は、またこの1年でかなりの進歩(?)がみられた。タイムラプス、PGS、aCGH、NGS、NIPT そしていよいよ胚への遺伝子操作の解禁である。限定的ではあるが、ここでは原発を反面教師として、人間の能力以上の介入は許されまい。NIPTの技術はすでに外国では遺伝子微小欠失検出も実用段階に入っている。これらはコンピューターの進歩とともにますます急速に範囲を広げ、1ヵ月前は不可能と思われていたことが今日は可能となるように発展するであろう。それに対して本邦の遺伝子科学(医学)における倫理構築はすでに相当の時差をもって遅れているといつてよい。いかにして科学の進歩にこの社会人文的倫理哲学が対等の位置を確保してその方向性に一矢を報いる働きができるのかが問われている。ここで生殖医療従事者の立場からはその基本に立ち返って論じなければならないだろう。その基本とは「生まれてくる子どもの福祉」であると考え。

生殖医療に携わる者として、患者の社会的側面にも目を向ける必要がある。それは他の疾患とは異なつて、生殖医療は大いに社会的、地域的、家族的かわりが大きいことによる。その一つに経済的問題を取り上げると、当院では1997年頃から不妊治療の保険適用の全国に呼びかけての署名活動(皆様ご協力ありがとうございました)を行い、2002年からは5回にわたって国会請願を行い、その結果、2004年から特定不妊治療費助成金が交付されるようになった。1年目は全国で66億円が交付され、収入制限もあったが、1回15万円が交付された(大分では収入制限なく、しかも20万円)。その後、申請者数が増加し、200億円を超えるようになり、交付回数制限、年齢制限が行われるようになった。これはやむを得ないと思うが、少子高齢化対策に反する動きでもある。しかし2015年、大分県はこれに対し、さらに助成金の上乗せを実現してくれた。15万円に加え、さらに15万円、つまり大分県では体外受精1回につき30万円(凍結を行えば39万円)が助成されるのである。これには大分県福祉保健部の安藤恵美さんという熱心な担当者の働きに負うことが大きかった。そして2015年10月から交付されるようになり、その結果、当院の体外受精施行数が2割増加し、しかも30歳代の若いカップルが増えた。これが将来の出生率の上昇に寄与することは否めないと思う。

別府平和園は今年、園長の定年退職に伴って大幅な人事異動が行われた。園長は通常、園外の福祉の専門家や高名な方に来ていただくことが多いようだが、わたしはやはり、その施設をよく知っている方に責任者をお願いしたいと思っていた。そこで前園長（近藤功氏）も、また今回の園長（近藤邦子氏）も平和園生え抜きの保育士、保母さんをお願いした。そのことにより、若い職員が目標にする先輩と身近に接する機会を増やすことになったと思う。また、子どもたちも以前から親しくしてくれているお姉さんが園長であり、安心して過ごすことができるようである。

昨今の福祉環境は以前とは異なり、数多くのなさねばならない事項が山積している。それをそつなくこなすにはマンパワーが必要で、今回初めて、副園長（藤本正彦氏）を設置し、副園長は全面的に園長の職務を補佐することとした。そしてさらに保育士（山内裕子氏）、児童指導員（宮崎祐介氏）の4人で平和園の指導的役割を担当することとした。

その直後、あの熊本・大分地震が起こり、平和園も大きな動揺が生じて、特に2回目の本震では児童全員が園の庭で夜を過ごすことになったが、その際の誘導対処そして抱擁と、的確にその役割を果たしたようである。これからこの実力をもとに希望ある将来計画を構築してほしいと期待するし、我々平和園に關与する評議員、理事も力いっぱい支えていきたい。

一年を振り返って

医局・心理専門相談室

河邊 史子

昨年は、例年以上にあっという間に過ぎたように感じている。私事ではあるが、8月に父が他界した際は長いお休みをいただき、院長先生に心から感謝している。その後も土曜の仕事が終わった後に鹿児島にたびたび帰省させていただき、独りになった母といろんな話をした。10歳で手塚治虫氏のブラックジャックに出会い、医師になるという夢を持ったのだが、高2の終わりだったか高3の初めだったか、父に医学部はあきらめてくれと言われた。経済的理由であった。布団の中で何晩か泣いて、理学部志望に変えたのだったが、共通一次の後、今は亡き担任の長野先生が直接両親を説得してくださり、鹿児島に残ることを条件に急きょ医学部受験が決まった。30年経った今、あの時が私の人生において最初で最大の分かれ道だったのだなあと感じる。医学部受験を許してくれた両親と兄、そして長野先生に改めて深く感謝している。

仕事に関しては、昨年は大きな変化はなかった分、ともすれば油断してしまいがちだったかもしれないと過ぎてみて反省している。その時その時は一生懸命にやっていたつもりだが、院長先生が出張の時も、数年前ほどの緊張感はなく淡々と過ごしてしまっていたかもしれない。いろんな手技にも慣れ、一通りはできるようになってきたからこそ、意識して緊張感を保たなければいけないのだろう。男性の医師もそうかもしれないが、女性医師は仕事のことだけでなく、子どもの受験や親の介護問題なども考えなくてはならず、あれもこれも中途半端にならないように気を引き締めていきたいと思う。

4月からは甲斐由布子先生が帰ってこれ、3人体制での診療となった。セント・ルカ産婦人科がまた一段レベルアップできるよう頑張りたい。

稗田 真由美

つい先日、この原稿書いたのでは？ というような感覚であったのに、一年が経つのは本当に早く、一日、一ヵ月、一年と季節が早々と過ぎていることを実感している。

昨年は、入職3年目にして遅ればせながらではあるが、院長先生、事務長、スタッフの協力を得て、生殖心理カウンセラーの資格取得を目指し東京まで通わせて頂いた。幸運にも資格を取得でき、先生方、スタッフの協力なくしてはここまで到達できなかったと思い大変感謝をしている。先に、“遅ればせながら”とは書いたが、ある程度の生殖領域の知識が入った上で受講したことが、自分にとっては有効だったと思う。例えば、病院内で当たり前のように理解していたことについての再確認、様々な専門用語や薬一つにしても病院の中で今更聞けない基本的なことを質問することができた。また、同じ目標を持っている臨床心理士同士で不妊治療施設に所属している、いないに関わらず、多くの交流をしたり、自分のカウンセリングを人に見てもらふことは最近では皆無に等しいので皆でアセスメント、ディスカッションをしながら充実した時間を過ごした。資格を取得したことで、自分にこれから何ができるのかを考えている。患者に対しての基本的な接し方はあまり変わらないと思うが、医療に関する限られた事柄に対しては、それらの関連性や裏付けを持ってきちんと患者に説明できるようになるのかと考えている。毎年のように多くの学会にも参加をさせて頂き、自分の分野はこの業界の中ではニッチな領域なのだろうと認識しているが、所属させて頂いている意味を忘れず個性を持って邁進できたらと考えている。

一年を振り返って

看護部

後藤 裕子

今年も1年を振り返る時期となりました。

世間は安倍政権のもとで安全保障関連法案の採否を巡り国論を二分したことや、世間で続発したテロや異常気象、マンションの杭打ちデータ流用などで人々が不安になった年でした。そんな中、看護部にとっての1年はどうだったのかと改めて思い起こしてみました。

私達は生殖医療の最前線で仕事をしています。その第一線に立つものがしっかりと看護を提供してはじめてその組織は評価されますが、特に目的もなく日々の業務をこなすだけであることや、看護師個人が組織と結ばれていない現状であることがここにきて浮き彫りになってきました。よりよい医療を提供するには優秀な一人の看護師の力だけではなく、ひとつになった看護師全員の力が必要になります。勤務体制や労務管理、人員配置の検討に取り組み、周りからしっかりと評価してもらえるような組織作りに取り組んでいきたいと思っています。

私がセント・ルカ産婦人科に就職して10年の月日が経過し、看護師長に就任してもうすぐ5年が経過しようとしています。まだまだ発展途上の段階ですが、更に5年が経過した時には「総合力の看護部」として評価される部署でありたいと願っています。

足立 直美

一年を振り返り、私にとって最も印象に残っていることは、第33回日本受精着床学会総会・学術講演会に参加させていただいたことです。「不妊治療施設における減量に対するグループ指導」という演題でポスター発表をすることが決まった時には、浅学かつ人前で話すことが苦手な私には重圧以外の何物でもありませんでした。

しかし、今は私にこのような機会を与えていただいたことに深く感謝しています。肥満というハイリスク妊娠の危険を回避するためには、まず減量させる、単純なことです。これが極めて難しいのも事実です。そこで、当院では個別の減量指導にとどまらず、グループ指導にも取り組んできました。個別指導では、一方通行の指導となりがちです。しかし、グループ指導の場では同じ状況下の患者さんが話し合う機会を設け、減量に向けての悩みや、情報の共有化等を図ってきました。これは、減量の意思の持続に有効であるとともに、参加している患者さんの声をお聞きし、指導を行う私たち担当者のスキルアップにも繋がってきました。減量に苦しみながらも徐々に体重が減ってきた患者さんを無事、妊娠・分娩病院への紹介に至ったときには、グループ指導に携わった職員全員、嬉しさとともに充実感に満たされます。私は、今後も今できることを常に探しながら、些細な一歩からでも看護につなげたいと思います。

一年を振り返って

研究室・培養室

大津 英子

2016年4月14日21時過ぎ、家でそろそろお風呂に入るかなと思っていた矢先、突然携帯電話のアラームが鳴り響きました。緊急地震速報でした。きっと大したことはないだろうなと思いながらもテーブルの下にもぐり込んだ途端、大きな揺れを感じました。すぐに培養室を確認する必要がある震度だ！と確信しました。まだ、細かい揺れを感じている間にも、携帯電話のアプリケーションを介して培養室スタッフ全員とやり取りができ、私ともう一人のスタッフが確認に行くことに決まりました。大分市内は震度4で、培養室に被害はありませんでした。翌日の本震（大分市内は震度5弱）の際には、多くのインキュベーターに水漏れが確認されましたが、幸い胚に被害はありませんでした。

たくさんの他施設の先生方や培養士の方々、業者の皆様から心配と協力を申し出るご連絡を頂きました。本当にありがとうございました。

今回の出来事で培養室スタッフ全員の、患者さんからお預かりしている胚への気持ちと、いろんな方々から支えられていることを再確認しました。まだまだ予断は許されない状況ですが、どこか暖かい気持ちを持つことができた一年でした。

後藤 香里

入職して18年目を迎えました。入職したばかりの頃は受精卵を扱う仕事の難しさに、幾度となく挫折しそうになったことを今でも覚えています。その時、院長や奥様をはじめ、先輩や同僚が忙しい手を止め、声をかけ指導してくれたからこそ今の自分があると思います。その恩返しができるよう努めてきたら18年目を迎えていました。

当院では一人でも多くの患者さんに赤ちゃんが授かるよう、多くの研究や臨床データの検討を行っています。遺伝子の研究であったり、マウスを用いて抗がん剤が卵子へ及ぼす影響を検討したり…各自目標を持って取り組んでいます。私も何か、自分が専門といえる研究がしたいと思っていた矢先、院長先生から働きながら大学院へ進学し、子宮内膜の研究を進めてはどうかというお話をいただきました。子宮内膜の知識はゼロと言っても過言ではない中、大分大学の大学院に入学させていただきました。今は大分大学産科婦人科学教室で榎原久司教授の下、河野康志診療教授にご指導いただき、子宮内膜の基礎から研究することの楽しさまで教えていただいています。染色体異常を持たず流産を繰り返す患者さんの原因究明を、この研究を通して行っていきたいと考えています。

17年進化し続ける生殖補助医療に携わってきました。その経験値に自信を持ち、一人でも多くの患者さんに赤ちゃんが授かるよう技術を活かし、研究を行っていこうと思います。

一年を振り返って

受 付

越 名 久 美

この一年を振り返ってみると、2015年も走り続けた一年だったと思います。

2015年は、助成金制度が2回改正されました。2015年10月、新鮮胚移植を実施した方に大分県は15万円→30万円、大分市は20万円→30万円。採卵から凍結胚移植に至る一連の治療を実施した方に大分県は15万円→39万円、大分市は20万円→39万円、2016年1月には体外受精を行ったが移植ができなかった方に(特定不妊治療の申請が初回の方のみ)大分県は15万円→30万円、大分市は20万円→30万円へと助成金額が大きく引き上げられました。

これにより、当院でも若い患者さんで体外受精に進む方がかなり増えました。大分県の助成金額は全国でもトップだと言われています。若い方が少しでも早い段階で不妊治療に一步踏み込めるきっかけになればと思います。

また私の個人の活動として、2015年もJISART教育委員会が開催されました。毎回、この教育委員会ではたくさんの刺激をもらっています。次回のJISART教育セミナーのテーマは『教育』です。当院でも2015年12月に新入職員が入社し、2016年3月には11年勤めたベテランスタッフが退社しました。新しい5人体制で動きだしましたが、目まぐるしい毎日を送っています。まずはこの1年、スムーズに日常業務が行える事、教育セミナーで学んだ事を活かし、スタッフひとりひとりの個性を磨きあげられるよう、今後も事務部門の指導者として邁進していきたいと思います。

濱 奈 津 美

暑からず寒からず、過ごしやすい季節となりました。この時期になると新社会人のキラキラとした姿が見え、自分の入社当時を思い起こします。

2016年は先輩が1名退職、新人1名が入社し、私は入社して2年と半年が経とうとしています。毎日、先輩に熱意のあるご指導をいただき、自己のスキルアップに努め、後輩のやる気と目まぐるしい成長に刺激を受けながら、自分の経験を活かし教育するとともに、自分の知識を確実なものへとすることができたのではないかと思います。

2015年5月に行われた第3回性教育セミナーでは、司会進行という大役を務めさせていただき、不安や緊張の中、先輩方の激励を受けながら無事終えることができました。

講師の先生方を見る参加者の真剣なまなざし、様々な表情を見ることができたのも、この場所の醍醐味であったと思います。このような機会をいただける環境に、今、自分が居られることに感動と感謝の気持ちでいっぱいです。

私たちは、月に一度、日本福音ルーテル大分教会の野村陽一先生より聖書を学びます。私の頭の中に強く残っている言葉が、「神は乗り越えられない試練は与えない」という言葉です。

毎日多くの患者さんが受診され、様々な苦難があると思いますが、どんな苦難も希望へと導く、そんな前向きな気持ちで患者さんとも切磋琢磨しあえるような存在でありたいと思います。

一年を振り返って

情報処理室

安部 里美

毎年4月から5月は年報作成のためのデータチェックやセント・ルカセミナーの準備など、慌ただしく過ごしていますが、今年もあっという間に時間が流れています。

情報処理室が2名体制になって1年が経ちました。以前は3名で行っていた仕事を2名で行っている中で、必然的に仕事量が増え、思うように仕事が処理できないことにもどかしさを感じることもあります。ひとつひとつの仕事をもっと効率良くこなせるよう、処理能力アップを目指したいと思います。

さて、2015年はどんな年であったか振り返ってみますと、院内データシステムを見直そうと動き始めた年でした。電子カルテ導入の話も持ち上がり、IT委員会を立ち上げて、何をIT化すれば便利になるか、各部署から案を持ち寄って話し合ったりもしました。電子カルテはなかなか当院の希望に沿うものがなく、導入は保留となっていますが、体温表の電子化など、他の視点からのIT化を模索しています。スタッフの負担軽減やミスの予防に繋げられるシステムを構築できるよう、今後もしっかり検討していきたいと思っています。

「一年を振り返って」を書くにあたり、去年自分が書いた文章を読み返してみると、苦手分野の克服を目標にしたいと書いていました。1年が経過して、状況はあまり変わっていないように思います。忙しいことを言い訳に、自分を甘やかしている証拠だと反省しています。院長が常日頃おっしゃっているように物事を前向きに捉え、努力を怠らないよう意識付けていきたいと思っています。

山路 美和

2015年はとにかく忙しく、時間経過の感覚もないまま、毎日が終わってしまいました。振り返ると、仕事に追われるだけの受動的な1年だったのではないかと反省しています。時間がいくらあっても足りず、なぜ1日は24時間なのだろうと、昨年はよく思ったものです。

さて、情報技術の進歩はすさまじく、常にアンテナを張っていないと、今知り得る情報はすぐに過去のものとなります。機器の進化に伴いシステム開発も行わねばならないのですが、その速さに追いつけずマンパワー不足を痛感しています。また必要な情報のふり分けには豊富な知識も必要となります。学生のうちは学ぶ場や教えてくれる人もいますが、社会人ともなるとそうはいきません。情報処理室のスタッフとして自発的に学び探究する姿勢で、情報を得ていきたいと思っています。

つい先日のミーティングで、院長からスタッフに「物事を後ろ向きに考えるな！」と、叱咤激励がありました。忙しいが口癖になっていた私はハッとさせられました。時間は有限であると同時に、何の疑いもなく自分にも限界を作っていたのだと感じました。2016年は時間と自分自身を最大限有効活用し、能動的な1年にしていきたいと思っています。

現在、不妊治療は世間で知られる事も多くなり、理解と意識が増えてきているように思えます。

しかしながら、どこか世間体を気にして躊躇してしまったり、誰かに相談したいけどなかなかできない…など、不安がつきもので、自分自身が受け入れるのも難しかったりと大変だと思います。

先日、入院されている患者さんの部屋に置いてある『なんでもノート』に目を通す機会があり、読ませていただきました。その中で、ご夫婦おふたりが書き込まれているページを見つけ、入院生活の流れはもちろんですが、ご主人の奥様に向けてのメッセージがとても素敵で、「これが二人三脚なのかな」と読んでいて心が温かくなりました。

また、「ご飯が美味しかった」という感想もあり、嬉しくなるのと同時に、「ますます頑張るぞ!」と励みになりました。患者さんとお会いし、お話する機会はなかなかありませんが、「食事の時間が唯一の楽しみでした」と仰ってくれる患者さんがいらっしやると、微力ながら支えになれていると思えて嬉しくなります。スタッフの一員として、皆さんと一緒にステップアップできるよう、目標を新たに行動に移し努めていきたいと思います。



診療統計

開院から2015年までの成績



開院から2015年までの成績

(1992.6.3～2015.12.31)

当院の患者数

- 1) 開院 (1992.6.3) ～ 本年 (2015.12.31) までの外来患者数 **25,116人**
- | | | | |
|------|---------|-----------------------|-------------|
| (内訳) | 男性 | 9,180人 (36.6%) | (平均年齢34.1才) |
| | 正常 | 4,799人 (52.3%) | |
| | 異常 | 4,051人 (44.1%) | |
| | 未検査・未診断 | 330人 (3.6%) | |
| | 女性 | 15,936人 (63.4%) | (平均年齢32.0才) |
- ・ 拳児希望の女性 12,358人 (77.5%) (平均年齢31.9±4.7才)
 - ・ 2014年1年間の拳児希望女性 484人 (平均年齢33.9±4.6才)
 - ・ 妊娠件数 **7,785件** (平均年齢32.5±4.3才)
 - ・ 妊娠に至らなかった女性 5,791人
- 2) 妊娠率 (患者あたり) **53.1%** {(12,358-5,791)/12,358}
- 3) 治療を途中で諦めた女性 5,568人 (45.1%)
- A) 諦めざるをえなかった人 (無精子症, 早発閉経, 高齢など) 1,353人 (10.9%)
 - B) いつの間にか諦めた人 4,215人 (34.1%)
- 4) 実妊娠率 (Aを除く患者あたり) **59.7%** {(12,358-5,791)/(12,358-1,353)}
- 5) 実妊娠率 (A,Bを除く患者あたり) **96.7%** {(12,358-5,791)/(12,358-5,568)}

妊娠に至った主たる有効治療

ART (生殖補助医療) 全体	3,512例	(45.1%)
IVF-ET (体外受精)	690例	(8.86%)
MF-ET (顕微授精)	1,048例	(13.46%)
CRYO-ET (凍結胚移植)	1,731例	(22.24%)
GIFT (配偶子卵管内移植法)	38例	(0.49%)
ZIFT (接合子卵管内移植法)	5例	(0.06%)
ART (生殖補助医療) 以外	4,273例	(54.9%)
IUI (選別精子子宮内注入法)	800例	(10.28%)
hMG+hCG, Gn-RHa	880例	(11.30%)
クロミフェン	478例	(6.14%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	815例	(10.47%)
HSG (子宮卵管造影法) 直後	614例	(7.89%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	499例	(6.41%)
腹腔鏡検査および子宮鏡手術	2例	(0.03%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	12例	(0.15%)
リンパ球免疫療法	15例	(0.19%)
その他	158例	(2.03%)
計	7,785例	(100%)

妊娠の転帰

分娩病院へ紹介済	5,574例	(71.60%)
流産	1,882例	(24.17%)
異所性妊娠	204例	(2.62%)
胞状奇胎	14例	(0.18%)
中絶	1例	(0.01%)
不明	110例	(1.42%)
計	7,785例	(100%)

出産結果（分娩病院へ紹介済の 5,574 例中、妊娠結果が判明している 5,244 例について）

1) 妊娠結果

満期産	4,578例	(87.30%)
満期産＋死産*	4例	(0.08%)
満期産＋異所性妊娠*	1例	(0.02%)
満期産＋奇形中絶*	1例	(0.02%)
早産	492例	(9.38%)
早産＋死産*	9例	(0.17%)
過期産	18例	(0.34%)
死産	57例	(1.09%)
流産	61例	(1.16%)
流産＋死産*	1例	(0.02%)
奇形中絶	16例	(0.31%)
人工妊娠中絶	6例	(0.11%)
計	5,244例	(100%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

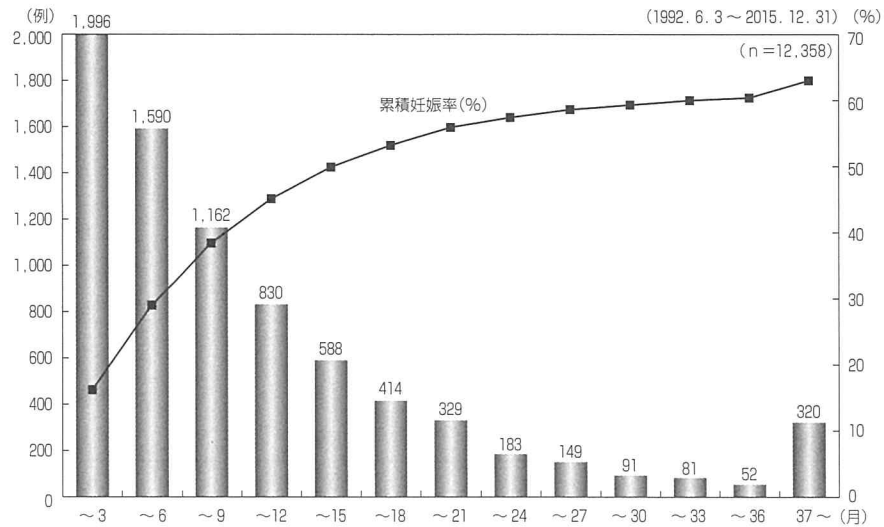
単胎	4,870例	(92.9%)	4,870児
双胎	357例	(6.8%)	714児
品胎	17例	(0.3%)	51児
計	5,244例	(100%)	5,635児

3) 出生児の状態

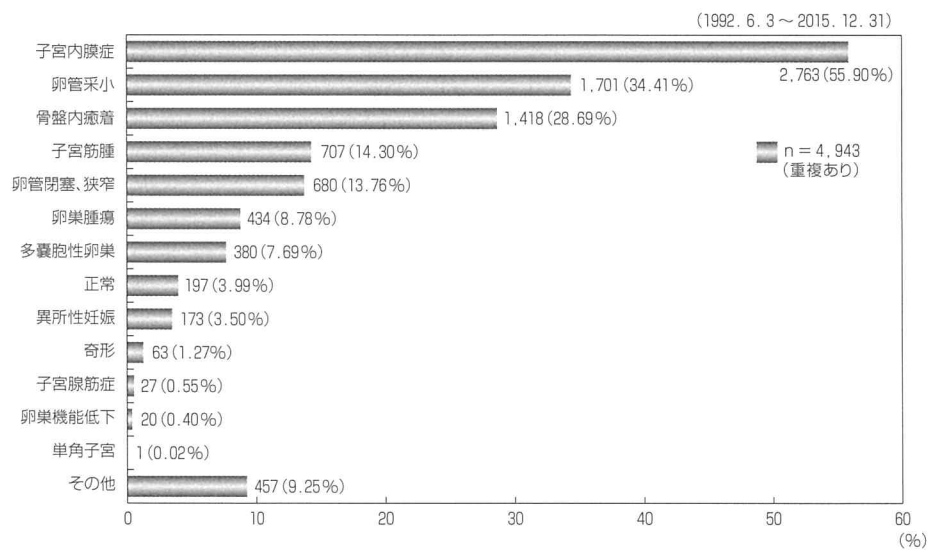
正常	4,432児	(78.6%)
低体重児	849児	(15.1%)
異常（死産等含む）	354児	(6.3%)
（うち奇形を含む主な異常）	(215児)	(3.8%)
計	5,635児	(100%)

(2015/12/31 セント・ルカ産婦人科)

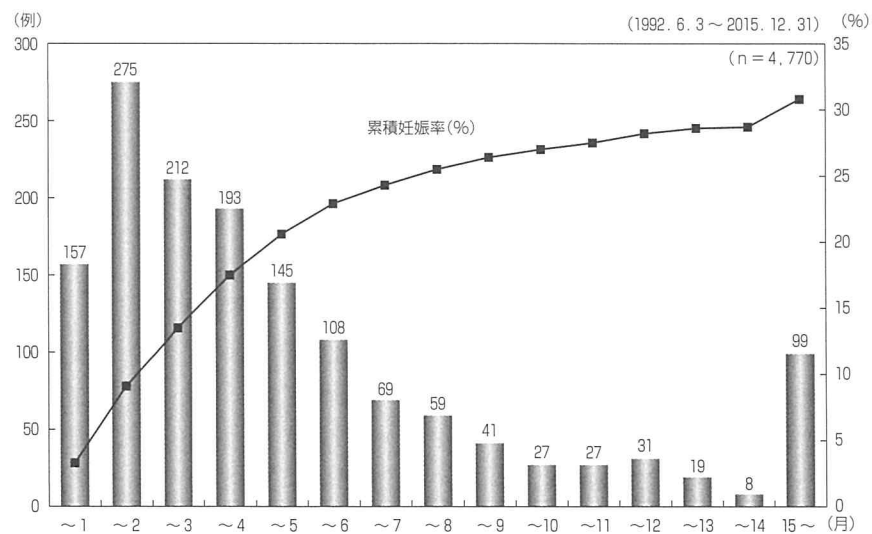
初診後妊娠までの期間



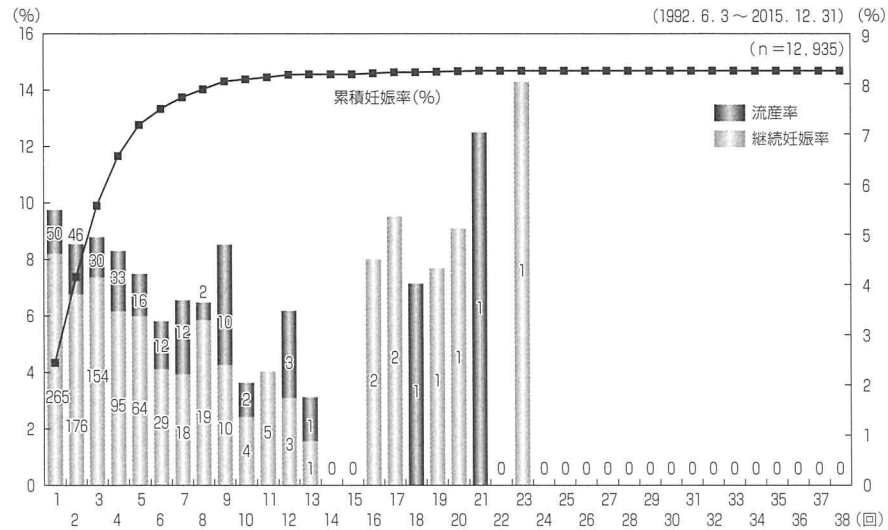
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断



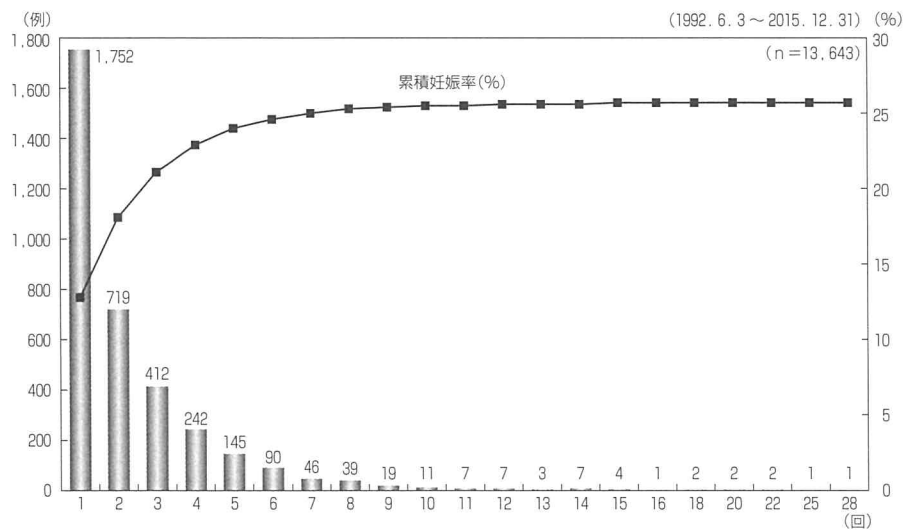
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



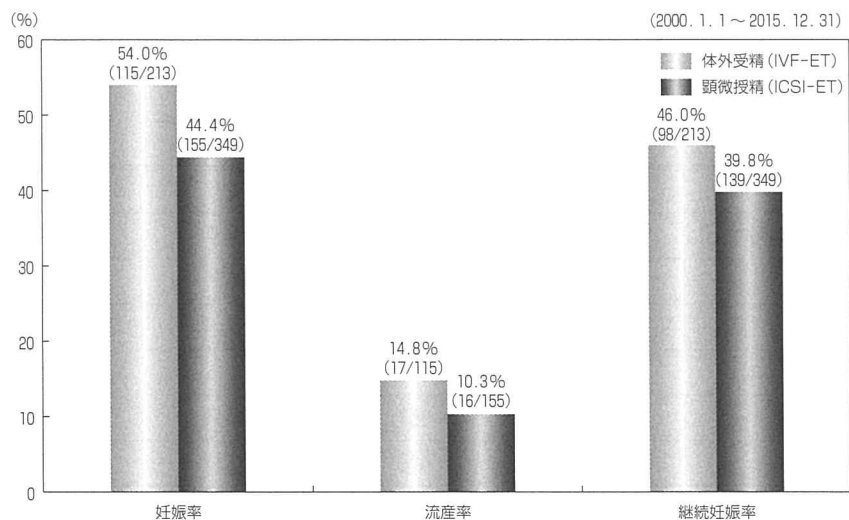
IUI (選別精子子宮内注入法) による回数別妊娠率



ART (生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT) による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



妊 娠 数

(1992.6.3～2015.12.31)

	周 期	1992～2012	2013	2014	2015	合 計
体外受精胚移植 (IVF-ET)	採 卵	3,400	82	47	29	3,558
	移 植	2,456	31	20	2	2,509
	妊 娠	672 (27.4%)	9 (29.0%)	7 (35.0%)	0 (0.0%)	688 (27.4%)
顕微授精胚移植 (MF-ET)	採 卵	6,891	521	638	580	8,630
	移 植	4,529	215	301	123	5,168
	妊 娠	905 (20.0%)	41 (19.1%)	75 (24.9%)	22 (17.9%)	1,043 (20.2%)
凍結融解胚移植 (ICSI後凍結含む) (CRYO-ET)	凍結融解周期	4,555	561	516	490	6,122
	移 植	4,110	533	476	459	5,578
	妊 娠	1,111 (27.0%)	202 (37.9%)	179 (37.6%)	188 (41.0%)	1,680 (30.1%)
体外成熟培養後 凍結融解胚移植 (IVM-CRYO-ET)	凍結融解周期	149	16	9	5	179
	移 植	122	14	8	5	149
	妊 娠	43 (35.2%)	2 (14.3%)	2 (25.0%)	3 (60.0%)	50 (33.6%)
配偶子卵管内移植 (GIFT)	採 卵	153	0	0	0	153
	移 植	151	0	0	0	151
	妊 娠	38 (0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	38 (25.2%)
接合子卵管内移植 (ZIFT)	採 卵	44	0	0	0	44
	移 植	44	0	0	0	44
	妊 娠	5 (0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (11.4%)
体外受精胚 卵管内移植 (IVF-TET)	採 卵	22	0	0	0	22
	移 植	21	0	0	0	21
	妊 娠	2 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)
顕微授精胚 卵管内移植 (MF-TET)	採 卵	18	0	0	0	18
	移 植	18	0	0	0	18
	妊 娠	5 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (27.8%)
凍結融解胚 卵管内移植 (CRYO-TET)	凍結融解周期	3	0	0	0	3
	移 植	3	0	0	0	3
	妊 娠	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
体外成熟培養 体外受精胚移植 (IVM-IVF-ET)	採 卵	8	0	0	0	8
	移 植	0	0	0	0	0
	妊 娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
小 計	採 卵	10,536	603	685	609	12,433
	凍結融解周期	4,707	577	525	495	6,304
	移 植	11,454	793	805	589	13,641
	妊 娠	2,782 (24.3%)	254 (32.0%)	263 (32.7%)	213 (36.2%)	3,512 (25.7%)

ART*以外の妊娠数	3,792	161	154	166	4,273
妊娠総数	6,574	415	417	379	7,785

*生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます



診 療 統 計

2015年 一年間の成績



2015年 一年間の成績

外来患者数

(2015.1.1 ～ 2015.12.31)

	午前診療	河邊外来	夕方診療	合 計
1月	1,344	168	144	1,656
2月	1,386	158	218	1,762
3月	1,526	203	270	1,999
4月	1,554	166	232	1,952
5月	1,456	165	196	1,817
6月	1,477	195	179	1,851
7月	1,441	158	287	1,886
8月	1,402	169	239	1,810
9月	1,430	197	164	1,791
10月	1,455	220	193	1,868
11月	1,489	204	217	1,910
12月	1,672	157	181	2,010
合 計	17,632	2,160	2,520	22,312

初診患者数

(2015.1.1 ～ 2015.12.31)

	午前診療	河邊外来	合 計
1月	33	6	39
2月	53	2	55
3月	48	8	56
4月	46	1	47
5月	46	7	53
6月	38	5	43
7月	49	9	58
8月	39	7	46
9月	35	10	45
10月	45	8	53
11月	41	5	46
12月	48	2	50
合 計	521	70	591

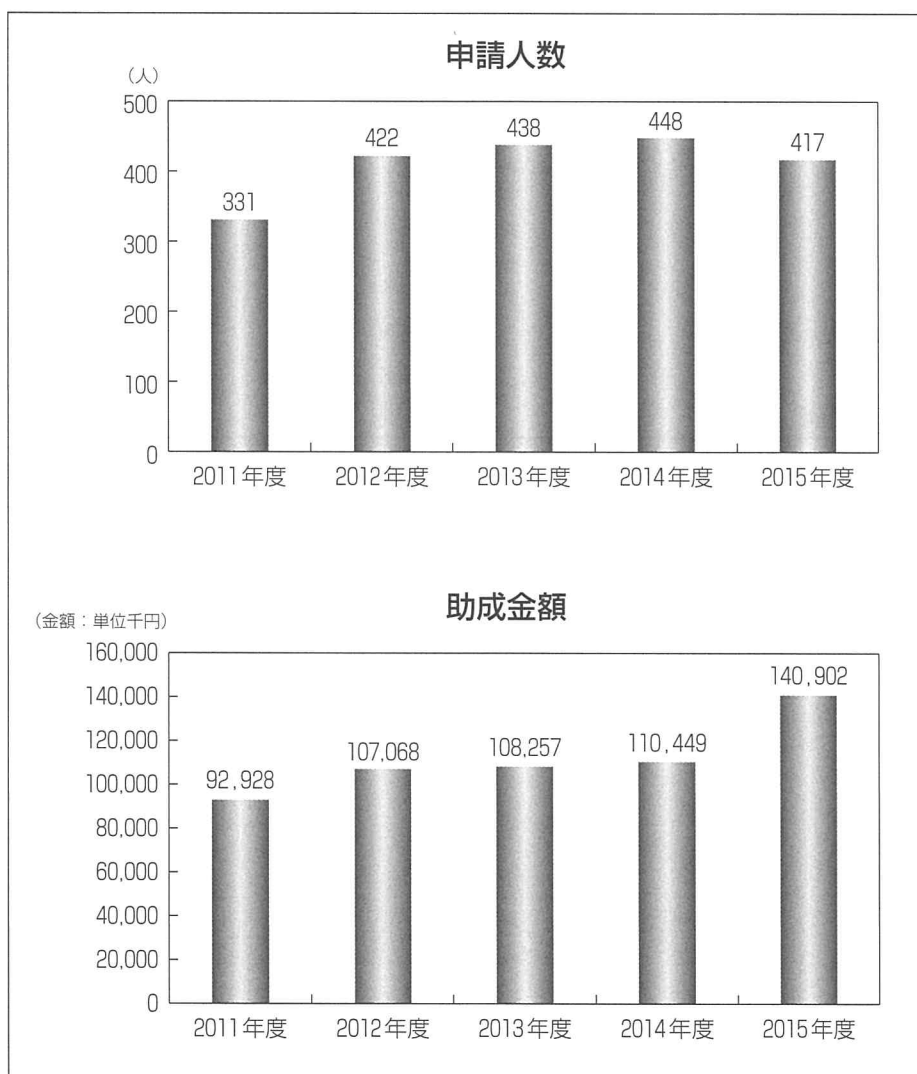
不妊治療費助成金申請内訳

2015年度

	人 数	申請回数	助成金額 (円)
大 分 県	157	264	54,351,600
大 分 市	220	363	82,557,200
他 県	2	2	490,000
市 町 村	38	38	3,502,800
合 計	417	667	140,901,600

(大分県の中には、市町村の助成金も含む)

過去5年分(2011年度～2015年度)のまとめ



2015年度から大分県独自の助成金上乗せ(15万円)が開始され、都合1回の体外受精につき30万円※が6回にわたって交付されるようになりました。

※新鮮胚移植の場合。採卵を伴う凍結胚移植の場合は24万円が上乗せされ、39万円を上限に、男性不妊の場合は最初の1回のみ4万円上乗せの19万円を助成。

妊娠に至った主たる有効治療

ART (生殖補助医療) 全体	213例	(56.2%)
MF-ET (顕微授精)	22例	(5.8%)
CRYO-ET (凍結胚移植)	191例	(50.4%)
ART (生殖補助医療) 以外	166例	(43.8%)
IUI (選別精子子宮内注入法)	10例	(2.6%)
hMG+hCG, Gn-RHa	71例	(18.7%)
クロミフェン	14例	(3.7%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	27例	(7.1%)
HSG (子宮卵管造影法) 直後	26例	(6.9%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	11例	(2.9%)
腹腔鏡検査および子宮鏡手術	1例	(0.3%)
その他	6例	(1.6%)
計	379例	(100%)

妊娠の転帰

分娩病院へ紹介済	246例	(64.9%)
流産	129例	(34.0%)
異所性妊娠	4例	(1.1%)
計	379例	(100%)

※出産結果は全ての妊娠結果が判明している2014年の妊娠を対象とする

出産結果 (2014年に妊娠し分娩病院へ紹介済の280例について)

期間(2014.1.1～2014.12.31)

1) 妊娠結果

満期産	257例	(91.8%)
早産	17例	(6.1%)
死産	4例	(1.4%)
流産	2例	(0.7%)
計	280例	(100%)

2) 多胎妊娠について

単胎	275例	(98.2%)	275児
双胎	4例	(1.4%)	8児
品胎	1例	(0.4%)	3児
計	280例	(100%)	286児

3) 出生児の状態

正常	240児	(83.9%)
低体重児	27児	(9.4%)
異常(死産等含む)	19児	(6.7%)
(うち奇形を含む主な異常)	(14児)	(4.9%)
計	286児	(100%)

異常児の詳細 (2014年の妊娠で出生した286児のなかの14児について)

主な異常 14児	14児／286児 (4.9%)		うち ART*児： 11児／169児 (6.5%) ART 以外児： 3児／117児 (2.6%)		
	ART	ART 以外		ART	ART 以外
心室中隔欠損症	4児	1児	尿道下裂	1児	0児
動脈管開存症	0児	1児	甲状腺機能低下症	1児	0児
気胸	2児	0児	停留睪丸	1児	0児
水腎症	1児	1児	子宮内胎児死亡	1児	0児

*生殖補助医療

手術・入院数

(2015.1.1～2015.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
--	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----

手術数

腹腔鏡手術	8	10	19	27	21	11	11	18	9	18	15	11	178
腹腔鏡下 子宮筋腫核出術	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
子宮筋腫核出術（開腹）	2	0	2	2	0	0	1	1	1	0	0	3	12
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	1	5
経頸管子宮筋腫・内膜 ポリープ切除術(TCR)	2	1	2	1	0	0	1	2	0	1	3	3	16
子宮内容除去術 （流産のため）	8	5	10	10	9	3	12	8	6	4	11	16	102
卵管鏡下卵管形成術	1	0	3	0	2	2	2	2	1	2	0	2	17
子宮内膜搔爬術	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	5
卵胞穿刺術	1	2	1	2	0	3	1	0	1	0	1	0	12
開腹手術 （子宮全摘出術）	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
減胎手術	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
その他	0	2	2	2	0	0	2	0	0	0	1	1	10
合 計	23	21	45	44	34	20	30	32	18	28	31	39	365

安静入院

卵巢過剰刺激症候群	0	3	1	4	1	1	1	0	0	0	4	0	15
切迫流産安静	0	2	1	1	1	0	0	2	1	0	1	0	9
その他	0	1	1	1	1	0	1	1	1	0	0	3	10
合 計	0	6	3	6	3	1	2	3	2	0	5	3	34

体外受精入院

採 卵	29	65	45	49	32	60	46	50	54	67	62	55	614
胚移植	7	29	23	24	10	27	5	0	0	0	1	0	126
凍結胚移植	16	34	38	32	36	29	29	33	42	58	51	66	464
GIFT, ZIFT, TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	52	128	106	105	78	116	80	83	96	125	114	121	1,204

入院総計	75	155	154	155	115	137	112	118	116	153	150	163	1,603
------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

ART（生殖補助医療）による妊娠

(2015.1.1 ～ 2015.12.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	29	2 (6.9%)	0 (0%)	0 (0%)
MF-ET (男性因子以外も含む)	581	124 (21.3%)	22 (17.7%)	7 (31.8%)
(ICSI)	540	124 (23.0%)	22 (17.7%)	7 (31.8%)
CRYO-ET	496	465 (93.8%)	191 (41.1%)	75 (39.3%)
ART.total	1,106	591 (53.4%)	213 (36.0%)	82 (38.5%)

ART（生殖補助医療）による出産および出生児の状況

(2014.1.1 ～ 2014.12.31)

2014年に妊娠し、2015年12月31日までに妊娠結果が判明している164周期に限る				
妊娠結果	満期産		149周期 (90.9%)	
	早産		11周期 (6.7%)	
	死産		3周期 (1.8%)	
	流産		1周期 (0.6%)	
多胎妊娠について	169児	単胎	160例 (97.6%)	160児
		双胎	3例 (1.8%)	6児
		品胎	1例 (0.6%)	3児
低体重児	19児 (11.2%)			
異常児	14児 (8.3%)	うち奇形を含む主な異常		11児 (6.5%)

双胎で2児の妊娠結果が異なる例



セント・ルカ産婦人科

一年のあゆみ



セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ

(2015.1.1 ~ 2015.12.31)

学会発表	37題		
院 長	3		
医 局	2		
研究室・培養室	17		
看護部	12		
心理専門相談室	3		
講演・講師	11題		
院 長	7		
研究室・培養室	2		
看護部	1		
心理専門相談室	1		
学会・講演会・研究会参加	43回		
研修会・講習会参加	26回		
著書（共著）	2編		
主催講演	5回		
第22回セント・ルカセミナー	1	総参加人数	86名
併会：第3回大分がん・生殖医療研究会			
第3回おおいた乳がん・生殖医療ネットワーク			
第3回大分性教育セミナー	1	総参加人数	125名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	3	総参加人数	255名
不妊カウンセラー活動	31回		
新患教室	7	総参加人数	538名
体外受精教室	10	総参加人数	773名
ガーネットサークル	5	総参加人数	25名
オリーブの会（第9期）	2	総参加人数	8名
オリーブの会（第10期）	5	総参加人数	25名
ご夫婦二人だけの生活を選ばれた 元患者さんを囲む会	1	総参加人数	14名
ウェイトサークル	1	総参加人数	2名

行事一覧

2015

1. 13	第190回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1. 17	第84回 新患教室 参加者79名 参加〈油野、青木桜、越名、城戸、戸高、坂本、斉高、越光、稗田〉
1. 17	第10回 第9期オリーブの会 参加者4名
1. 21	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号 (Vol.25) 取材
1. 24	第10回 ウェイトサークル 参加者2名
1. 24	第36回 日本エンドメトリオーシス学会(東京) 参加〈岡田、越光、院長〉 ワークショップ講演:「子宮腺筋症核出術を行った患者の検討」(院長)
1. 28	第6回 PGSに関する小委員会(東京) 参加〈院長〉
1. 31	第59回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名
1. 31	遺伝医療充実のための遺伝カウンセリングロールプレイ研修会(千葉) 参加〈院長〉
2. 5	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈院長〉
2. 6	第9回 大分女性医学フォーラム(大分) 参加〈河邊、院長〉
2. 6	SRL 研修(東京) 参加〈城戸〉
2. 7	日本産科婦人科学会公開シンポジウム「着床前受精卵遺伝子スクリーニング(PGS)について」(東京) 参加〈城戸、大津、院長〉 追加発言:「PGSに関する臨床研究と不妊治療の現状」(院長)
2. 8	がんと生殖に関するシンポジウム2015～小児・若年がん患者さんの妊孕性温存について考える～(大阪) 参加〈小池、熊迫、院長〉
2. 10	第191回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2. 14	第29回 大分『乳癌のつどい』(大分) 参加〈熊迫、越光、院長〉 ミニレクチャー:「『大分乳がん・生殖医療ネットワーク』のスタート」(院長)
2. 14	日本生殖医療心理カウンセリング学会 生殖医療相談士継続研修会(長崎) 参加〈小池〉
2. 15	第12回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(長崎) 参加〈小池、城戸、手島、篠田、後藤裕、稗田、院長〉 座長:シンポジウム「なぜ今カウンセリングが必要なのか?」(院長) 発表:「不妊症患者の着床前スクリーニングに対する意識調査」(城戸京子) 「不妊治療サポートグループに参加後治療を諦めた患者への聞き取り調査」(篠田多加子) 「男性の主観的ストレスからみた性的欲求と性生活の関係 ー初診時間診票と内分泌、精液検査からの分析ー」(稗田真由美)
2. 19	読売新聞記者 取材の為に来院
2. 21	第211回 体外受精教室 参加者90名 参加〈青木、足立小、佐藤、松土、斉高、篠田〉
2. 21	読売新聞記者 体外受精教室取材の為に来院
2. 23	クラウド医療情報システムセミナー(大分) 参加〈安部、越名〉
2. 24	院内全体研修:初診患者のストレス状況と夫婦関係・性生活についての調査(担当:心理専門相談室)
2. 28	第60回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者89名 講師〈越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈山路、青木、藤沢、熊迫、川村、赤嶺、足立直〉
3. 1	JISART 施設認定審査説明会・審査員研修(東京) 参加〈足立小、越光、稗田〉
3. 3	第192回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3. 6	平成26年度 第1回 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会研修会/第24回 大分婦人科悪性腫瘍研究会(大分) 参加〈院長〉

行事一覧

3. 7	第37回 日本造血細胞移植学会学術総会(兵庫) 参加<院長> 市民公開講座講演:「造血疾患未婚患者からの卵子凍結保存」(院長)
3. 7	第11回 第9期オリーブの会 参加者4名
3. 8	第212回 体外受精教室 参加者70名 参加<油野、足立小、小池、斉高、篠田、稗田>
3.10	第7回 PGSに関する小委員会(東京) 参加<院長>
3.12	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
3.14	日本卵子学会 平成26年度 第4回理事会(東京) 参加<院長>
3.17	院内全体研修:避難訓練(担当:研究室・培養室)
3.17	安全管理研修:2014年度コンプライアンス教育(担当:情報処理室)
3.20	日本受精着床学会 平成26年度 第3回常務理事会(東京) 参加<院長>
3.22	日本A-PART学術講演会2015(東京) 参加<小池、熊迫、院長> 講演:A-PART臨床研究報告「未婚女性がん患者の卵子凍結の経験」(院長)
3.23	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』夏号(Vol.26)取材
3.24	院内全体研修:SarahBaseとは?(担当:情報処理室)
3.24	子宮頸がん予防ワクチン接種研修会(大分) 参加<河邊、院長>
3.26	日本卵子学会臨時理事会(東京) 参加<院長>
3.27	大分産婦人科女医の会(大分) 参加<河邊>
3.28	第85回 新患教室 参加者72名 参加<青木、越名、長木、戸高、北田、岡田、稗田>
3.28	セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
3.31	院内全体研修:養子縁組をされた元患者さんの陪席より(担当:心理専門相談室)
4. 2	欧州PGD/PGSワークショップ:新世代のARTに向けて(福岡) 参加<佐藤、城戸、大津>
4. 2	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<佐藤、城戸、大津、院長> 症例紹介:「均衡型相互転座(三方向組み換え)に伴う反復流産症例」(院長)
4. 4	第213回 体外受精教室 参加者56名 参加<青木、足立小、大津、斉高、松土、篠田、稗田>
4. 6	新職員 浦川奈津美(看護部)
4.11	第67回 日本産科婦人科学会(神奈川) 参加<院長>
4.11	日本産科婦人科学会 指導医講習会(神奈川) 参加<院長>
4.11	日本産科婦人科学会 倫理委員会説明会(神奈川) 参加<城戸、大津、院長>
4.11	IFFS International Meeting 2015 第5回組織委員会(神奈川) 参加<院長>
4.14	第193回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
4.14	第22回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員:上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順) オブザーバー:稗田真由美(セント・ルカ産婦人科 臨床心理士)、河邊史子(セント・ルカ産婦人科 医師)
4.17	第41回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<安部、青木、藤沢、大城、足立小、越名、佐藤、城戸、後藤香、浦川、戸高、手島、北田、亀井、斉高、赤嶺、足立直、岡田、関、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長> 「生殖医療と統合医療」(宮崎医科大学 名誉教授 森憲正先生)
4.18	第86回 新患教室 参加者52名 参加<青木、越名、後藤香、浦川、戸高、北田、岡田>
4.21	安全管理研修:培養液管理・培養器(インキュベーター)管理について(担当:研究室・培養室)
4.25	第60回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名

4.25	出自を知る権利の実現に向けて～問題点の抽出と解決への道筋の模索～(東京) 参加<院長>
4.26	IFFS/JSRM International Meeting 2015/第60回 日本生殖医学会学術講演会(横浜) 参加<小池、熊迫、長木、手島、川村、稗田、河邊、院長> 座長：シンポジウム1「Leading the way to increase the "Take Home Baby Rate" for patients : medicine, protocols and technologies」(院長) 発表：「Influence of cyclophosphamide (CPA) on viability of mice pups」(小池恵) 「The non-invasive predictive system for human pronuclear stage embryos quality assessment combined with the time-lapse imaging and the measurement of respiration activity」(熊迫陽子) 「Impact of pre and post laparoscopic ovarian treatment on ovarian reserve in infertile women : A prospective study」(長木美幸) 「Comparison of two types of transdermal estrogen supplement medicine」(手島しおり) 「Interviews of POI patients during infertility treatment」(川村智恵) 「Subjective Stress in Husbands : The Impact on Sexual Intercourse and Desire Including Data from Testosterone and Sperm Examination」(稗田真由美) 「Re-evaluation of laparoscopic ethanol sclerotherapy for ovarian endometriomas and ovarian reserve」(河邊史子)
4.29	第60回 日本生殖医学会学術講演会市民公開講座「第三者が関与する生殖補助医療と法制化」(横浜) 参加<院長>
5. 7	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
5. 9	第214回 体外受精教室 参加者70名 参加<油野、青木、足立小、佐藤、浦川、斉高、松土、篠田、稗田>
5.12	院内全体研修：「接遇」について(担当：受付)
5.12	第194回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.17	第3回 日本生殖医療支援システム研究会(神戸) 参加<安部、越名、長木>
5.19	院内全体研修：心肺蘇生法(担当：看護部)
5.22	日本卵子学会 平成26年度 監事監査(東京) 参加<院長>
5.23	第61回 『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者94名 講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<安部、青木、下川、浦川、赤嶺、川村、足立直>
5.24	第3回 大分性教育セミナー(ホルトホール大分) 参加<山路、安部、青木、藤沢、大城、越名、下川、佐藤、後藤香、浦川、北田、川村、松土、足立直、松元、岡田、関、篠田、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長> 講師：平岡友良先生<あおもり協立病院 副院長> 「思春期のココロとカラダ」 座長：宮川勇生先生<大分大学 名誉教授> 講師：安日泰子先生<やすひウイメンズヘルスクリニック 院長> 「性教育って本当は面白い！」 座長：谷口久枝先生<やぐちレディースクリニック 院長>
5.24	JISART 施設認定審査 審査員<足立小>
5.26	マネジメントレビュー
5.28	大分県立看護科学大学(大分) 講義 参加<山路、青木、浦川、亀井> 講義：「不妊症講座」(院長)
5.30	第56回 日本卵子学会(栃木) 参加<小池、熊迫、大津、院長> 座長：一般演題「胚培養②」(院長) 胚培養士セッション講演：「1PN、3PN 胚の取り扱い」(大津英子) 発表：「マウスを用いた妊孕能に対するシクロフォスファミド(CPA)投与の影響」(小池恵) 「ヒト前核期胚を非侵襲的に評価するためのタイムラプスイメージングシステムと呼吸量測定の効果について」(熊迫陽子)
5.30	日本卵子学会 第14回 培地開発委員会(栃木) 参加<院長>
5.31	日本卵子学会理事会(栃木) 参加<院長>
5.31	JISART 施設認定審査 審査員<越光>

行事一覧

6. 4	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
6. 5	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
6. 6	第 7 回 JISART 心理教育セミナー(東京) 参加<稗田>
6. 6	第 8 回 JISART ラボ教育セミナー(東京) 参加<佐藤、長木>
6. 6	第12回 JISART 看護教育セミナー(東京) 参加<松元、篠田>
6. 7	第13回 JISART シンポジウム(東京) 参加<佐藤、長木、松元、篠田、稗田、院長> シンポジウム講演:「不妊治療サポートグループ 当院の取り組み」(篠田多加子)
6. 9	第195回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
6. 9	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.27)取材
6.10	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
6.13	第215回 体外受精教室 参加者82名 参加<青木、足立小、城戸、浦川、斉高、関、篠田、稗田>
6.14	第22回 セント・ルカセミナー／第3回大分がん・生殖医療研究会／第3回おおいた乳がん・生殖医療ネットワーク 講演1: 佐々木裕之先生<九州大学生体防御医学研究所ゲノム機能制御学部門エピゲノム制御学分野 教授> 「卵細胞質とエピジェネティクス」 座長: 吉村恭典先生<日本産科婦人科学会前理事長、第2次安倍内閣 内閣官房参与> 講演2: 河野康志先生<大分大学医学部産科婦人科学講座 診療教授> 「卵巣機能とアディポサイトカインの病態への関与」 座長: 吉村恭典先生<日本産科婦人科学会前理事長、第2次安倍内閣 内閣官房参与> 講演3: 北島智也先生<理化学研究所多細胞システム形成研究センター染色体分配研究チーム チームリーダー> 「マウス卵母細胞における老化依存的な染色体分配エラーの原因」 座長: 植原久司先生<大分大学医学部産科婦人科学教室 教授> ランチョンセミナー: 増野浩二郎先生<大分県立病院 外科副部長> 「閉経前乳癌の術後療法と妊孕性温存の実際〜31歳の未婚女性乳癌症例の経験」 ランチョンセミナー: 上尾裕昭先生<うえお乳腺外科 院長> 「乳腺外科の現場から」 座長: 宇津宮隆史先生<セント・ルカ産婦人科 院長> 講演4: 古井辰郎先生<岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学 准教授> 「若年がん患者のがん治療と妊孕性について〜岐阜県でのがん・生殖医療の取り組み〜」 座長: 宮川勇生先生<大分大学名誉教授> 講演5: 上澤悦子先生<福井大学医学部母子看護学・助産学 教授> 「ケースから学ぶがん・生殖看護の役割」 座長: 上尾裕昭先生<うえお乳腺外科 院長>
6.15	31st Annual Meeting of European Society of Human Reproduction and Embryology (Lisbon) 参加<熊迫、大津、事務長、院長> 発表:「The non-invasive predictive system for human pronuclear stage embryos quality assessment combined with the time-lapse imaging and the measurement of respiration activity」(熊迫陽子)
6.17	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
6.21	第 9 回 パパ・ママになりたい人のためのセミナー: 妊娠力について考えよう(熊本) 参加<稗田> 講演:「これからの新しい家族づくりに向けて〜今、こころがけておきたいこと〜」(稗田真由美)
6.23	第117回 大分県周産期研究会(大分) 参加<山路、安部、青木、瀨、大城、足立小、越名、下川、小池、佐藤、城戸、後藤香、浦川、戸高、坂本、北田、亀井、斉高、赤嶺、川村、足立直、岡田、関、篠田、後藤裕、河邊、院長> 発表:「当院における体外受精で挙児に至った症例の現状」(後藤香里) 「当院における性教育の取り組み」(関こずえ)
6.25	日本卵子学会 平成27年度 第3回理事会(東京) 参加<院長>
6.26	第39回 日本遺伝カウンセリング学会(千葉) 参加<院長>
6.26	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
6.26	日本アンドロロジー学会 第34回学術大会(福岡) 参加<下川>

6.27	第1回 第10期オリーブの会 参加者7名
6.27	第1回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>
7.2	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
7.2	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
7.4	第87回 新患教室 参加者84名 参加<青木、越名、後藤香、浦川、戸高、岡田、稗田>
7.9	第12回 大分県母性衛生学会実行委員会(大分) 参加<後藤裕>
7.9	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
7.11	第61回 ガーネットサークル OG1名、参加者3名
7.14	第196回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7.16	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
7.16	九州厚生局及び大分県との共同による社会保険医療担当者の個別指導(大分) 参加<足立小、越名、院長>
7.17	日本医療研究開発機構 平成27年度 第1回研究班会議(東京) 参加<院長>
7.18	第216回 体外受精教室 参加者61名 参加<青木、足立小、大津、浦川、斉高、松土、篠田、稗田>
7.18	第2回 第10期オリーブの会 参加者4名
7.20	『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医』認定講習会(東京) 参加<院長>
7.23	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
7.25	第11回 九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加<川村、足立直、越光、河邊、院長> 発表:「卵管鏡の導入」(院長)
7.26	第72回 九州・沖縄生殖医学会(福岡) 参加<小池、熊迫、長木、川村、足立直、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長> 座長:一般口演「10. ART(胚培養)」(院長) 発表:「マウスを用いた妊孕能に対するシクロフォスファミド(CPA)投与の影響」(小池恵) 「ヒト前核期胚を非侵襲的に評価するためのタイムラプスイメージングシステムと呼吸量測定の効果について」(熊迫陽子) 「腹腔鏡が卵巣予備能に与える影響:前方視的検討」(長木美幸) 「不妊治療中のPOI患者への聞き取り調査」(川村智恵) 「不妊治療施設における減量に向けてのグループ指導」(足立直美) 「男性の主観的ストレスからみた性的欲求と性生活の関係」 —初診時間診察と内分泌、精液検査から—(稗田真由美) 「腹腔鏡下子宮内膜症性卵巢嚢胞エタノール固定術の再評価」(河邊史子)
7.28	あすか製薬学術情報担当者集合研修(東京) 参加<院長> 講演:「生殖医療われわれの取り組み」(院長)
7.29	第226回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<院長>
7.30	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
8.1	第88回 新患教室 参加者69名 参加<青木、越名、佐藤、浦川、戸高、北田、岡田>
8.1	第2回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>
8.7	事業者向け社会保障・税番号制度(マイナンバー制度)説明会(大分) 参加<越名>
8.7	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
8.8	第3回 第10期オリーブの会 参加者5名
8.11	第197回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
8.14	徳島大学ぎねこ連にて阿波踊り(徳島) 参加<矢野、大城、城戸、松土、院長>
8.17	インターンシップ受入れ(~8月28日まで)
8.19	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
8.22	第3回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>

行事一覧

8.22	第22回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加<城戸、大津、院長>
8.25	院内全体研修：食べ合わせと便秘について(担当：厨房)
8.25	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』冬号(Vol.28)取材
8.26	マイナンバー研修会(大分) 参加<越名、院長>
8.29	第217回 体外受精教室 参加者86名 参加<青木、足立小、熊迫、斉高、松土、篠田、稗田>
8.30	日本生殖医学会 第2回生殖医療従事者講習会(大阪) 参加<河邊>
9. 1	第8回 PGSに関する小委員会(東京) 参加<院長>
9. 2	第227回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<院長>
9. 3	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
9. 4	第25回 遺伝医学セミナー(千葉) 参加<院長>
9. 8	第198回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
9. 8	院内感染研修：B型肝炎について(担当：看護部)
9. 8	タイムラプスユーザーミーティング(東京) 参加<熊迫>
9.10	第55回 日本産科婦人科内視鏡学会(横浜) 参加<越光、後藤裕、院長> 発表：「卵管鏡の導入」(院長)
9.10	第10回 技術認定審査コンセンサスミーティング(横浜) 参加<院長>
9.13	第13回 日本生殖看護学会(岡山) 参加<城戸、岡田> 発表：「不妊患者の着床前スクリーニングに対する意識調査」(城戸京子) 「不妊クリニックで開催した保護者のための性教育の取り組み」(岡田清美)
9.15	院内全体研修：避難訓練(担当：受付)
9.19	第62回 『赤ちゃん～今ならきつと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者72名 講師<越名(受付)、越光(看護副師長)、稗田(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生> 参加<山路、油野、青木、小池、浦川、赤嶺、川村、足立直、河邊>
9.25	平成27年度 第2回 PGSに関する小委員会ワーキンググループ(東京) 参加<院長>
9.25	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
9.26	第4回 第10期オリーブの会 参加者5名
10. 1	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
10. 2	第42回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会(大分) 参加<山路、安部、油野、青木、濱、大城、足立小、越名、下川、佐藤、城戸、長木、浦川、戸高、坂本、北田、亀井、赤嶺、川村、足立直、松元、岡田、越光、後藤裕、稗田、河邊> 「子宮内膜症の癌化を見逃さないコツ」(奈良県立医科大学 産婦人科 教授 小林浩先生)
10. 2	日本受精着床学会 平成27年度 第1回常務理事会(東京) 参加<院長>
10. 2	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
10. 3	遺伝性疾患に関する出生前診断研究会幹事会(福岡) 参加<院長>
10. 3	第22回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(福岡) 参加<佐藤、城戸、院長>
10. 3	第4回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>
10. 9	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
10.10	第218回 体外受精教室 参加者73名 参加<青木、足立小、大津、浦川、斉高、松土、篠田、稗田>
10.11	第12回 大分県母性衛生学会(大分) 参加<浦川、戸高、坂本、北田、亀井、赤嶺、川村、松元、篠田、越光、後藤裕、稗田、河邊、院長> 発表：「不妊治療中の早発卵巣不全(POI)患者への聞き取り調査」(川村智恵)

10.11	日本卵子学会 第7回 生殖補助医療胚培養士セミナー(東京) 参加<下川>
10.13	第199回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
10.15	第60回 日本人類遺伝学会(東京) 参加<佐藤、城戸、院長>
10.16	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
10.17	第62回 ガーネットサークル 参加者6名
10.23	第6回 大分産科婦人科内視鏡研究会(大分) 参加<院長>
10.23	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
10.24	第89回 新患教室 参加者84名 参加<青木、越名、長木、戸高、北田、岡田>
10.24	第5回 第10期オリーブの会 参加者4名
10.24	第5回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>
10.24	医療情報システムフェア(大分) 参加<山路、安部、大城、越名>
10.27	マネジメントレビュー
10.27	第23回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、緒方俊一先生(おがた泌尿器科医 院 院長)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、 野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順) オブザーバー：稗田真由美(セント・ルカ産婦人科 臨床心理士)、河邊史子(セント・ルカ産婦人科 医師)
10.28	DIS Power Day 2015 in おおい(大分) 参加<山路、安部>
10.30	第38回 日本母体胎児医学会(別府) 参加<院長>
10.30	2015年度 不妊症看護認定看護師教育課程(東京) 参加<手島>
10.31	第10回 RecNet(福岡臨床研究倫理審査委員会ネットワーク)講習会(福岡) 参加<大津、後藤裕、院長>
11. 2	新職員 渡辺千枝(看護部)
11. 5	第46回 大分市医師会医学会(大分) 参加<山路、安部、青木、濱、大城、足立小、越名、下川、小池、佐藤、後藤香、熊迫、長木、大津、浦川、 戸高、坂本、北田、亀井、赤嶺、川村、足立直、松元、岡田、篠田、越光、後藤裕> 発表：「体外受精においてタイムラプスによる胚の観察からわかること」(小池恵) 「複雑な染色体組換えを有する夫婦の着床前診断の検討」(大津英子) 「不妊治療中の早発卵巣不全(POI)患者への聞き取り調査」(川村智恵)
11. 5	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
11. 7	第219回 体外受精教室 参加者74名 参加<足立小、小池、斉高、松土、篠田、稗田>
11. 8	JISART 施設認定審査
11. 8	第2回 西日本生殖看護グループ勉強会(福岡) 参加<松土、松元>
11. 9	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.29)取材
11.10	第9回 PGSに関する小委員会(東京) 参加<院長>
11.13	The 17th Chongqing ART Conference(重慶) 参加<小池、後藤香、院長> 講演：「Using scanning electrochemical microscopy method to measure the oxygen consumption of embryos and time lapse imaging of embryos : evaluating the quality of human embryos for clinical treatment and practical application」(院長)
11.14	第6回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>
11.18	Reproductive Genetic Diagnostics Conference(Boston) 参加<城戸、大津、院長>
11.21	第63回 ガーネットサークル 参加者6名

行事一覧

11.21	第30回 日本生殖免疫学会総会・学術集会(熊本) 参加<後藤香> 発表:「子宮内膜間質細胞の脱落膜化における Protease activated receptor-1 (PAR-1) を介した 妊娠維持への細胞内情報伝達経路における検討」(後藤香里)
11.22	第 6 回 JISART 事務教育委員会(東京) 参加<越名>
11.24	第200回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
11.26	第33回 日本受精着床学会総会・学術講演会(東京) 参加<小池、熊迫、大津、川村、足立直、後藤裕、稗田、院長> 座長:教育講演3「着床前遺伝子診断の新たな解析技術がもたらす重篤な疾患への福音」(院長) アフタヌーンセミナー講演:「移植方法と黄体補充の strategy」(院長) シンポジウム講演:「多核割球胚・1PN/0PN 胚の臨床応用について」(大津英子) 発表:「マウスを用いた妊孕能に対するシクロフォスファミド(CPA)投与の影響」(小池恵) 「ヒト前核期胚におけるタイムラプスイメージングシステムを用いた観察と 呼吸量測定の効果について」(熊迫陽子) 「不妊治療中の早発卵巣不全(POI)患者への聞き取り調査」(川村智恵) 「不妊治療施設における減量に向けてのグループ活動」(足立直美) 「初診時のセックスレス夫婦の生活充実感と夫婦関係コーピング方略について」(稗田真由美)
11.28	第11回 ご夫婦二人だけの生活を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者14名
12. 3	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
12. 5	第90回 新患教室 参加者98名 参加<越名、城戸、戸高、北田、岡田、稗田>
12. 8	第201回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
12.12	忘年会
12.12	第 7 回 2015年度(第10期)生殖心理カウンセラー養成講座(東京) 参加<稗田>
12.13	平成27年度 大分県医師会母体保護法指定医師研修会(大分) 参加<院長>
12.14	新職員 田川佳奈絵(受付)
12.14	大分県議会人口減少・少子高齢化対策特別委員会(大分) 参加<院長> 講演:「本県における不妊治療の現状について」(院長)
12.18	第 1 回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会遺伝カウンセリングロールプレイ研修会(長崎) 参加<院長>
12.18	第 1 回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会(長崎) 参加<佐藤、城戸、院長>
12.23	第220回 体外受精教室 参加者111名 参加<青木、足立小、後藤香、斉高、篠田、稗田>
12.25	クリスマス会
12.26	日本人類遺伝学会・日本遺伝カウンセリング学会合同遺伝カウンセリングロールプレイ研修会(愛知) 参加<院長>

著書(共著)一覧

「配偶子提供の課題」(院長) 『臨床婦人科産科』第69巻第8号(医学書院)

「Reproductive Medicine and Medical Tourism」(院長)

『Current Issues and Emerging Trends in Medical Tourism』(IGI Global Press)

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、当院多目的ホールにて開催している。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演や胚培養士の話、臨床心理士やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡り、医師だけでなく、生殖補助医療に携わる全てのスタッフにとって興味深いプログラムになるよう工夫している。講師との距離が非常に近いため、質問もしやすく、質疑応答の時間や総合討論の時間など、毎回熱いディスカッションが行われる。休憩時間にも熱心に質問する姿があちこちで見られ、非常に有意義なセミナーである。

セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院スタッフで行っている。

大分がん・生殖医療研究会

開催頻度：不定期

がん患者さんのがん治療前の配偶子保存、受精卵保存のため、患者さんへの情報提供、医療機関の連携のためのセミナー等を行っている。

また、2014年9月には、大分県内の乳がん治療施設と生殖医療施設のネットワーク「おおいた乳がん生殖医療ネットワーク」を設立した。

大分性教育セミナー

開催頻度：1回／1年

不妊症患者の初診時の年齢の上昇に伴い、不妊知識調査を行ったところ、患者が「性」に対し、「避妊」について学ぶ機会はあっても、「不妊」や「生殖年齢」についてなど、大切な情報が不足していることが分かった。また、昨今の若者を取り巻く社会環境の変化に伴い、「性」に関する社会の状況、個々の考え方や概念など間違った性知識や危うい性行動などが広がっている。そこで、2013年より、当院の活動の一つとして、児童養護施設別府平和園の子どもたちに対する性教育に加え、大分県内の一般の方や教職員の方々に対しての性教育セミナーを開催している。

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

2015年3回開催 参加のべ人数255名

受診中の患者さん以外にも広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヵ月に1回（年4回）外部の会場で、参加者の方がリラックスして聞いていただけるよう、コーヒーとケーキを用意し開催している。

院長が詳しく説明した後、泌尿器科（協力病院）の医師による男性不妊の治療についてのお話、臨床心理士による心のお話、看護師による診療やサポート体制、受付スタッフによる助成金等のお話を行っている。また、OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産した方）のお話もあり、OG自身の治療歴や、治療中の悩みやストレスに対する対処の仕方など、患者さんの立場からお話をしていただけるため、毎回好評である。

新患教室

2015年7回開催 参加のべ人数538名

当院の多目的ホールにて、初診時の検査から体外受精までの一連の流れを、院長が2～3時間にわたって詳しく説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室、受付、臨床心理士からのお話も行っている。早い時期に夫婦で参加するため、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療に対する理解にも役立っている。

体外受精教室

2015年10回開催 参加のべ人数773名

初めて体外受精を受ける患者さん向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長が3～4時間にわたってわかりやすく説明している。その後、看護師、培養室、受付、臨床心理士から説明を行っている。

「受精は神秘的なもので、それに関わる体外受精はとても繊細な技術で病院側の誠意と努力をととても強く感じました」「不安に思っていたことが軽減され、不安なく体外受精に進むことができそうです」「最後の先生の夫婦仲良しが原点という言葉には胸をうたれました」など、患者さんからの率直な感想も聞かれる。

教室はご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療のステップアップにも役立っている。

新患オリエンテーション

初診時診察終了後に、不妊治療に対する教育を受けた看護師や臨床心理士が、写真や図を使い、30分程度時間をかけ、患者さんへの病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者さんの質問や不安に対して個別に対応も行っている。

心理専門相談室

在室日：月曜日～土曜日（予約制および随時受付）

臨床心理士が治療中の気分の落ち込み、夫婦関係、日常生活のストレス、また今後の治療への迷いなどのカウンセリングを行っている。一緒に考え、少しでも安心して治療が受けられるようなサポートを心がけている。

患者の治療の流れを見ながら声かけをしたり、初診時にお会いすることで不安の軽減や改めの来室にも繋がっている。

ガーネットサークル

2015年5回開催 参加のべ人数25名

当院で治療後、出産へと至った方をお願いして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象を絞り、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心がけている。

参加者より、「治療に前向きになれた」との声も聞かれ、経験者の話を聞くことにより、患者さんの不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会となっている。

オリーブの会(第1～10期)

2015年2回開催(第9期) 参加のべ人数8名

2015年5回開催(第10期) 参加のべ人数25名

40歳以上の患者さんの孤独感や不安を軽減させるため、また治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的として開催している。

同じ年代の同じメンバーに、臨床心理士と看護師を交え、治療のことや日頃感じていることなど、お茶を飲みながら、リラックスした自由な話し合いの場となっている。

ご夫婦二人だけの生活を選ばれた 元患者さんを囲む会

2015年1回開催 参加人数14名

不妊治療の終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、現在治療中の患者さんに対して、治療当時の思いや、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境などのお話をしていただいている。

ご夫婦で参加される方もおり、質問や意見交換も活発に行われる。治療中の患者さんにとって今後の治療や、これからの二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

ウェイトサークル

2015年1回開催 参加のべ人数2名

肥満はホルモンバランスに影響を及ぼしたり、妊娠後や出産時にもリスクを伴う恐れがあると言われているため、BMI24以上の方を対象に、体重指導を行っている。

院長相談

月・水・金曜日の夕方診療時(予約制)

治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談など、治療をする上で迷ったり悩んだ時、普段の診療では聞きにくいことを、他の患者さんを気にすることなくゆっくりと相談することができる。

なんでも相談 看護部

不妊治療を行う上での不安・ストレスや悩み、治療についての質問、体外受精などのステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談を受ける場を設けている。(予約制)

オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、他者に話を聞かれる心配をせず、ゆったりと相談することができる。希望があればARTに関する相談や治療の内容についての説明を行っている。

なんでも相談 培養室(胚培養士資格保持者による相談)

月曜日～土曜日の11:00～12:00(予約制)

体外受精における不安や疑問等の相談を随時受け付けている。

その他 外来相談係(看護部)

医師の診察時に聞けなかった質問や、細かな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者さんの電話での問い合わせにも対応している。

手術前説明(看護部)

手術を予定している方に、手術前の問診・各種検査(胸写・心電図・肺機能検査・血液検査)を行い、パスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

手術前説明(院長)

月・水・金曜日の夕方診療時(予約制)

手術予定の1週間前までにご夫婦でご来院いただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

手術後説明(院長)

月・水・金曜日の夕方診療時(予約制)

手術時の映像(動画)を見ながらご夫婦に、結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

ARTオリエンテーション(培養室)

(胚培養士資格保持者による相談)

体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

腹腔鏡検査での未熟卵子体外成熟培養体外受精胚移植について説明を行う。

ARTに関する説明(培養室)

(胚培養士資格保持者による相談)

体外受精胚移植または融解胚移植前に、説明を行う。

全胚凍結した場合、凍結した胚の説明を行う。

体外受精後、移植または全胚凍結ができなかった場合に説明を行う。

ART 結果説明(看護部)

院長よりARTの結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

全体朝ミーティング

毎朝、診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、心理専門相談室より当日の相談の予定、看護部より当日の手術予定について報告している。職員全員が参加し、情報を共有することにより、全員が一日の診療の流れを把握することに役立ち、士気を高めることに繋がっている。

院内研修・ミーティング

毎週火曜日の午後、職員全員が参加して行っている。研究室・培養室より、研究結果の報告、海外論文詳読、各部署より「ヒヤリ・ハット」を報告し、今後のために協議している。また、その週に治療を受ける患者さんについて治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

培養室朝ミーティング

毎朝培養室にて、院長を交え、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を行っている。

培養室ミーティング

1ヵ月に2回、培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々研究テーマについての話し合い、学会報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

スタッフ配置

院 長	宇津宮隆史
医 局	河邊史子、甲斐由布子
研究室・培養室	*大津英子、*熊迫陽子、*長木美幸、*後藤香里、 *,†,§ 城戸京子、*佐藤晶子、*,† 小池恵、後藤厚子
看 護 部	†後藤裕子、越光直子、松元恵利子、足立直美、松土留美、 川村智恵、赤嶺佳枝、斉高美穂、亀井里砂、北田奈津枝、 †手島しおり、坂本順子、戸高里美、浦川奈津美、渡辺千枝、 生野法子、三重野小百合、安東智子
心理専門相談室	‡稗田真由美（臨床心理士）
総 務 部	宇津宮富美子
受 付	越名久美、大城麻依、瀨奈津美、青木桜、田川佳奈絵
情 報 処 理 室	安部里美、山路美和
厨 房	矢野千恵美、油野亜由美

※：日本卵子学会および日本生殖医学会認定生殖補助医療管理胚培養士

*：日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士

‡：日本生殖心理学会認定生殖心理カウンセラー

†：日本生殖心理学会認定生殖医療相談士

§：日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所		
開設年月日	1992年6月3日		
住 所	〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号 TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/		
許可病床数	13床		
職 員 数	総数40名 常勤医 3名 臨床心理士 1名 研究室・培養室 4名 検査室・培養室 4名 看護師 9名 准看護師 6名 メディカルコーディネーター 3名 総務部 1名 受付 5名 情報処理室 2名 調理士 1名 栄養士 1名		
診療時間 (受付予約制)	月・水・金： 8:30～11:30 13:30～15:30 17:00～18:30 火・土： 8:30～11:30 (祝日を除く)		

〈本年報の集計も SarahBase を用いました〉

2015年 年報

2016年6月 発行

発 行：医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集：宇津宮 隆史
〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号
TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

